



碧南ロータリークラブ週報

第2488回例会 平成22年2月10日(水)

● 会長 鈴木 並生 ● 幹事 長田 豊治 ● 会場監督 (SAA) 新美 真司

■ 例会日 毎週水曜日 12:30

■ 例会場 碧南商工会議所ホール

■ 事務局 碧南商工会議所内

〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90

TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100

ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>

E-mail: info@hekinan-rc.jp

■ 会報委員 岡本明弘・新美雅浩・大澤明敬・西脇博正



● 齊 唱

ロータリーソング「我等の生業」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

新入会員入会式

新入会員 服部 弘史君

新入会員 大竹 密貴君



服部 弘史君



大竹 密貴君

会 長 挨 拶

2月はロータリー世界理解月間です、国際ロータリーは1905年の2月23日創立し、この日を創立記念日としており、23日から3月1日までを世界理解と世界平和の週間と定めております。詳細はガバナー月信、ロータリーの友2月号に載っていますのでみておいてください。先ほど入会式をさせていただきました通り、本日より服部君と大竹君の2名の新入会員をお迎えすることができました、心より歓迎申し上げます。勧誘戴いた方々に感謝申し上げます。



鈴木並生会長

本日は第一例会で、時間もありませんので、簡単ですが以上で挨拶といたします。

幹 事 報 告

- ・他クラブの例会変更等は別紙幹事報告の通りです。
- ・地区よりハイチ地震への募金の依頼がきていますので皆様のご厚志をお願いします。
- ・過日行われました西三河分区 I. M. の記念品がきておりますのでお持ち帰り下さい。
- ・本日例会終了後理事会を開催致します。



長田豊治幹事

委 員 会 報 告

〈出席奨励委員会〉

総会員数74名(内出席免除者14名の内出席者11名)出席者63名	
出席対象者 63/70名	出席率 90.00%
欠席者11名(病欠者1名)	前々回修正出席率 98.48%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

- 森田 英治君 新入会員 服部弘史君を紹介させていただきます。
- 加藤 良邦君 本日、新入会員 大竹密貴君、卓話の講師 海保りっこさん、お二人を紹介させていただきます。まるで盆と正月、そしてクリスマスまで来た様です。
- 岡田 赳勇君 久しぶりに例会に出席させていただきます。
- 鈴木 並生君 } 過日の I. M. には全員登録でたくさんの方にご参加頂き有難うございました。
- 長田 豊治君 } 第49回碧南市民スキー大会が車山高原スキー場にて開催され無事に終了しました。碧南市の保養施設 車山山荘を利用して楽しく過ごしました。
- 木村 徳雄君 新米行政相談員として森田先生のご指導を宜しくお願い致します。先日はありがとうございました。
- 新美 真司君
- 杉田 茂君 長田幹事、いろいろお世話になりました。
- 栗津 康之君 石川春久さんには、なにかとお世話になります。ありがとうございます。
- 服部 弘史君 入会させて頂きありがとうございました。よろしくお願い致します。
- 大竹 密貴君 入会させて頂き、ありがとうございます。どうぞよろしくお願い致します。

〈親睦活動委員会〉

会員誕生日

3日 藤関 孝典君 5日 森田 雅也君 5日 新美 雅浩君 16日 平岩 辰之君
18日 植松 敏樹君 26日 伊藤 正幸君

奥様誕生日

1日 中根 佑治君の奥様 澄恵様 5日 新美 雅浩君の奥様美由紀様
15日 新美 惣英君の奥様 直美様 20日 石橋 嘉彦君の奥様里美様

結婚記念日

11日 平岩統一郎君・和恵様 32年 11日 新美 宗和君・雅代様 30年
16日 竹下 聡君・美也子様 19年 24日 小林 克成君・佳江様 19年
26日 榊原 健君・陽子様 34年 28日 長田 銑司君・美代子様 47年

入会記念日

10日 服部 弘史君 10日 大竹 密貴君 27日 杉浦 栄次君

卓 話 「オペラ入門」 海保りっこ氏

ただいまご紹介に預かりました海保りっこでございます。数年前この卓話に呼んで頂きました。劇団四季「キャッツ」を観劇されるという事でミュージカルのお話しをさせて頂いたかと存じます。はじめましての方もいらっしゃるかと思いますし、あんなおばさん見たことないぞ！とお忘れになられた方もお見えだと思いますので、少し自己紹介をさせていただきます。



ここ碧南市に住んでおります。ご紹介にありましたように、名古屋二期会というオペラ公演団体に会員として所属しており、クラシックのオペラ歌手として活動しております。他、クラシックの発声法を用いて、ママさんコーラスなどの合唱団指導も行っております。クラシックの発声

法とは・・・今しゃべっているのはお隣の奥様方と井戸端会議をする時の普段声です。そしてこの声はクラシックの発声法を用いた声です。お聞きになられて違いがお解りになられるでしょうか？

本日この卓話という貴重なお時間を頂戴しましたので、ぜひ皆様のご教養の1つに「クラシックオペラ」という分野を加えていただきたく「オペラ入門」と題しお話しさせて頂こうと存じます。

では、日本で一番有名なイタリアオペラ、プッチーニ作曲「蝶々夫人 Madama Butterfly」より「ある晴れた日に」を歌います。どうぞお聞き下さい。この「Madama Butterfly」の「ある晴れた日に」は最初の「Un bel di, vedremo」の部分だけならTVやラジオでお聞き覚えのあるメロディーではないでしょうか？1980年代に桃屋のいかの塩辛CMソング、そして、1988年ソウルオリンピックでのシンクロナイズドスイミングの小谷実可子選手、1998年長野オリンピック開会式での聖火点火の場面、2006年トリノオリンピックでフィギュアスケートの安藤美姫選手がそれぞれこの曲をアレンジして使用しておりました。

記憶にも新しいトリノオリンピックでのフィギュアスケートといえば、荒川静香選手の金メダル「イナバウワー」ですが、この時使われていた音楽もプッチーニ作曲のオペラ「トゥーランドット」の「誰も寝てはならぬ」です。

話を「Madama Butterfly」に戻しましょう。このオペラのあらすじは、九州長崎が舞台です。アメリカ海軍士官ピンカートンは、彼の乗る軍艦「アブラハムリンカーン」が長崎に寄航したおり、没落した藩士の令嬢15歳の半玉芸者(芸者の卵・見習い芸者)の蝶々さんを現地妻にします。もちろん蝶々さんは、自分が現地妻であることは知りません。幼すぎ純情すぎたのですね。新婚初夜で妊娠した彼女はピンカートンがアメリカに戻ってから目の色が薄茶色の男の子を産みます。彼がアメリカに戻って3年が経ちました。長らく帰ってこないピンカートンを待ち続ける彼女に、女中スズキを含め周囲の人たちは、彼の事は忘れて新しい求婚者の世話になったらどうかと説得します。しかし蝶々さんは、かたくなにそれを拒み、彼は駒鳥が巣を作る頃、帰ってくると約束したのだから帰ってくるのだと信じているのです。そんな心情を歌ったのが先ほどの「ある晴れた日に」です。「ある晴れた日、海のかなたにひとすじの煙が上がるのがみえるでしょう。やがて船が見えます。あの方がいらしたわ。でも私はお迎えには行かないの。だって嬉しくて出会ったとたんには死なないように。ええきっとそうなるわ！そうでしょう！」っと。なんといたいけなのでしょう。

耐えにたえた日々のすえ、ようやくピンカートンが乗る軍艦「アブラハムリンカーン」が寄航するとの知らせが入ります。しかし、その喜びもつかの間、彼はアメリカで結婚しており、本妻を伴って現れます。女中スズキよりピンカートンと蝶々さんの間に子供がいる事、ピンカートンを3年も待ち続けていた事を知らされた彼は驚き、その場を逃げ出してしまいます。本妻ケイトは、その子供をアメリカに連れ帰り育てると対応します。事情を聞かされた蝶々さんは、自分が捨てられた事、そして子供まで取り上げられる事に打ちひしがれますが、この当時女手ひとつで目の色の違う子供を育てる事などできず、仕方なく子供を手放す事を承諾します。が、条件を出します。それはピンカートンが自分でこの子を引き取りに来る事でした。そして蝶々さんは仏壇の前に座り、父の遺品の短刀を取り出し「名誉のために生きる事かなわざりし時は、名誉のために死なん」と銘を読み、子供に目隠しをした上で、日米の旗を持たせ、自決します。ピンカートンが引き取りにきた時は、ときすでに遅く、蝶々さんは息耐えます。

このオペラの作曲家プッチーニは1883年(明治16年) 25歳の若さで最初のオペラを書き、次々と傑作を発表している当世人気の作曲家でした。42歳の頃(1900年明治33年)初めて行ったイギリス旅行で、アメリカの小説家・新聞記者のジョン・ルーサー・ロングの短編小説「蝶々夫人」を元

に、アメリカ人演出家のデーヴィット・ベラスコが書いた戯曲「蝶々夫人」のロンドン公演を観劇して感激し、イタリア人のイルリカ・ジャコーザという信頼のおける劇作家と共に3人で、当時まだ珍しかった「ご当地オペラ」、いわゆる舞台がヨーロッパではないオペラを書き上げました。この「ご当地オペラ」には先ほどお話しにでました荒川静香選手：イナバウワーの「Turan dot」もあげられます。これは67歳で亡くなる頃(このオペラの後半1/4は弟子によって書かれた)に書かれたオペラで、舞台は中国の北京。

話を戻しましょう。現在ではイタリアオペラの主要なレパートリーとなっている「Madama Butterfly」ですが、初演時はオペラ上演時間が長すぎる、又は文化の異なる日本を題材にした作品という理由で失敗に終わりました。しかしその後すぐに改稿が行われ、大成功をおさめました。改稿後も、日本の「お江戸日本橋」「君が代」などの日本の歌の1節が織り交ぜられています。イタリア人のプッチーニはどこで日本の生活様式やお国事情・日本のメロディーを手に入れたのでしょうか。それは、ちょうど1900年(明治33年)に開催されていたパリ万国博覧会の日本のパビリオンに行き勉強したそうです。また、プッチーニが44歳(1902年明治35年)の頃、当時のローマ駐在の日本大使大山綱介(おおやまつなすけ1853 - 1912明治時代の外交官。明治17年外務書記官となり、弁理公使をへて、1899年(明治32年)イタリア公使。薩摩(鹿児島県)出身)の夫人久子さんと知り合いになり数回会い、いろいろ尋ねたという記録が残っています。大山久子さんは、華族出身で三味線や箏など邦楽にも造詣が深い女性でありました。他にも、定かではありませんが、パリ万博に合わせて渡欧していた川上音二郎とその妻川上貞奴が日本の音楽や踊りの伝統芸能を紹介していた時期であり、プッチーニはその川上音二郎一座にも会いに行った、という話があります。

そもそも何故日本の長崎が舞台になったのでしょうか？それは、原作小説を書いたジョン・ルーサー・ロングの姉が、牧師と結婚し、19世紀末の長崎に夫婦で赴任した事から始まります。長崎に滞在期間中のロングの姉は、出入りの人々から様々なエピソードを聞き、帰国後土産話として弟ロングに話をした訳です。実際、アメリカの海軍が長崎に軍艦を停泊させていたのは日清戦争(1894年(明治27年)～1895年(明治28年))の頃です。アメリカ海軍は直接的に戦闘には参加していませんが、日米修好通商条約のからみもあり、オブザーバーのような形で長崎にやってきていました。ロングの姉が長崎に滞在していた期間と重なるのです。

オペラ「Madama Butterfly」の内容について大まかにお話しましたが、お聞きになられて、「な～んだ!内容的には昼メロや2Hドラマと変わらないじゃないか」と思われた方も少なくないのではないでしょうか?!オペラの内容としては、大きく3つに分けられます。一つは「オペラ・セリア」主として神話・伝説や歴史上の英雄物語を題材としたセリア(真面目)で悲劇的な内容。そして「オペラ・ブッファ」主として現在を舞台とする喜劇的な風刺的内容、そして各地方の民謡などを意図的に用いたオペラ。ブッファとは(ふざけた)という意味。またもう一つは「ジングシュピール」ドイツで盛んになった民衆的な「歌芝居」。せりふの合間に歌をふんだんに取り入れた内容。そうです「ジングシュピール」以外、「オペラ・セリア」「オペラ・ブッファ」のせりふは「レチタチーボ」といわれ、全て音程がついています。「ジングシュピール」は「ミュージカル」に近い形ですね。

この3種類ともジャンルをまたいで作曲し、オペラの歴史を語るうえで、絶対に欠かせない作曲家は「Wolfgang Amadeus Mozart」(1756～1791)です。日本では江戸時代第9代徳川家重、第10代徳川家治、第11代徳川家斉の時代に生まれた、皆様もよくご存知の天才作曲家です。彼は「アマデウス」(1984年アメリカにおいて映画化8部門でアカデミー賞を獲得)という映画になったり、オーストリアのお菓子の包み紙・リキュールの顔にもなっていますよね。彼は35年という短い生涯にオペラだけでもおよそ22にもおよぶ作品を残しました。彼の天才たる所以は、ただ単に

沢山の作品を残したという事ではなく、それまでのオペラの常識をくつがえした事にあります。それまでのオペラは、出演する歌手本位で、劇中で勝手に歌手がお客に受けるよう、又歌手の都合に合わせて歌っていたもの（今でいうアドリブだらけの歌）でした。しかしMozartはそれに人間的情绪やリアルなドラマを注入し、オペラに尊厳と精神的な気高さを与えたのです。実際現在数多く上演されるオペラはMozart以降の作品です。彼以前のオペラ作品の上演は現在ほとんどありません。彼の音のつくり方は、単に音楽的技巧そのものにふける為に存在するものではなく、あらゆるものが意味と目的を持って作られているのです。

例えば、日本人で有名な作曲家山田耕筰(1886年明治19年～1965年昭和40年)が日本語のイントネーションに合わせて作曲をした「赤とんぼ」ですが、「ゆうやけこやけのあかとんぼ・・・」が「・・・」という風に違うイントネーションで作曲されていたとしたら、歌いにくいし、意味が通じず聞き取りにくいですね。また、「・・・」というように一番言いたい大事な「赤とんぼ」が低い音で小さく書いてあったらどうでしょう？なんの歌かがわかりませんよね。そういう事をごく自然にMozartは山田耕筰より100年も前に行っていたのです。山田耕筰はこの西洋音楽を学び、それを日本語のイントネーションに合わせて日本歌曲を作曲したのです。

さて、Mozartに戻りますが、彼は、当時タブーとされていた宮廷貴族社会への批判をオペラの中で行いました。それは、Mozartが音楽家となるべく道が他の音楽家と大きく違っていただけだと思います。当時音楽家は宮廷付もしくは教会付の音楽家になるしかなかったのです。早くからモーツァルトの才能に気づいた父レオボルトは、「神童」であった彼の演奏を披露するとともにより良い就職先を見つける為に、オーストリアザルツブルグ生まれの彼を、6歳からウィーン・ミュンヘン・イタリア・パリ・ロンドンなど欧州各地へ演奏旅行に連れて出かけます。この大旅行は20歳頃まで続き、今のように乗り心地のよい列車や飛行機のない時代ですから、幼い彼に心身共にかなりの影響を及ぼしました。有名な逸話に、6歳のモーツァルトが、宮殿の床で滑って転んでしまい、その時手を取った7歳のマリー・アントワネットにプロポーズしたという話がありますが、大人の中で育った彼はかなり早熟だったのは確かです。

結局良い就職先に恵まれず、フリーの音楽家となります。何故恵まれなかったかということ、つい先般「品格」の問題で首になった人がおられました・・・、Mozartは、かなりのお下品でいわゆる品行が悪く、人前で、今でいう放送禁止用語を大きな声で歌いながらピアノの即興演奏をする人だったのです。それは、慌しく旅行をして子供どうして遊べない日々を過ごしたあの大旅行が影響をおよぼしたかもしれません。モーツァルトのオペラについては、また機会がありましたらお話しさせていただきます。

少しはオペラに興味を持っていただけましたか？このようにオペラの内容には人間くさい部分が沢山あります。もちろんオペラの作曲家はMozartや先のPucciniだけではありません。もっと多くの作曲家が沢山の人間くさいオペラを書いています。誰と誰が愛し合っていて、誰に横恋慕されたとか、親子同士、又は兄弟で同じ人を知らずに愛してしまい決闘するとか・・・オペラは決して高尚な一部の人間の為の娯楽などではありません。人間が一生かけて味わう喜怒哀楽を、数時間に凝縮して舞台にのせたものです。そうした激しい感情の起伏と接する事によって、ともすれば消耗しがちな自らの喜怒哀楽に揺さぶりをかけてみてはいかがでしょうか？

99%近くのオペラ台本は男性が書いておりますので、ヒロイン役は男性が好む従順で可憐な女性が多いようです。きっとヨーロッパの女性は強いので、そういう女性に憧れがあるのでしょうか！特に先のPucciniのヒロインは可憐で必ず病気で死ぬか自殺します。

オペラは、何を言っているかわからない外国語だから・・・と耳にしますが、今は字幕スーパーという良い機械があります。そう、映画の字幕スーパーと同じようなものです。事前にどんな内容なのか？調べておいていただければ最高ですが、敷居が高いなどとは思わず1度オペラを観に

お出かけ下さい。よく上演される演目はそう数はありませんし、オペラの中の曲は、いろいろな所でアレンジをかえ使われています。サッカーの応援で歌う「・・・」はヴェルディのオペラ「アイーダ」中の凱進行進曲です。中田英寿がイタリアセリエAのパルマFCに居た時、同FCの応援歌にアイーダの「凱進行進曲」が使用されているのを気に入ったことを自身のHPで語ったことがきっかけだそうです。

とりとめのない話となりましたが、皆様の頭の片隅に「へえ～オペラって堅苦しいものじゃないんだ」というシールが貼れたとしたら嬉しいです。長い時間お聞き頂き、ありがとうございました。

次回例会案内

平成22年2月24日（水）卓話「裁判員制度について」

弁護士 野田葉子氏